令和七年度

私たちの振り返り

社会福祉法人可愛福祉会

可愛保育園

Ⅰ 保育の計画性

1.

①園の保育理念や保育方針を理解し共感している。

②園の方針、園長の考えについて園長や副園長・主任保育士と話し合い保護者に説明できる。

2.

①保育所保育指針を理解し、子どもの姿や環境の構成、保育者とのかかわりなど具体的な事例を思い浮かべることができる。

3.

①園の全体的な計画は、保育所保育指針をふまえ、園の理念･方針に従い編成している。

②1 年間の子どもの成長を振り返り、全体的な計画を評価している。

③園の全体的な計画は、社会状況や子どもの実態、地域性などを考慮しながら必要に応じて見直しを行っている。

4.

①保育計画は、子どもの興味や関心、これまでの生活や予想されるこれからの生活などを考慮し作成している。

②行事は、子どもの生活上の意義を十分検討した上で、保育計画に組み入れている。

5.

①保育計画に基づいて、子どもが主体的にかかわりたくなるような安全で清潔感のある環境構成をしている。

②楽しい雰囲気の中で、安定して遊び込めるように玩具や用具、素材など質･数量を配慮して環境構成をしている。

③子どもの活動がより豊かになるように子どもの発想を柔軟に取り入れ、活動の展開に応じて環境の再構成をしている。

④幼児の発達や生活を見通し、季節の変化に応じた環境構成をしている。

⑤異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている。

6.

①自分の保育と評価・反省について、次の保育と計画に生かせるように行っている。

②お互いに保育を見せ合い、検討し、評価･反省を加え、子どもの生活と自らの保育につなげている。

Ⅱ 保育の在り方、子どもへの対応

1.

①朝の登園時は家庭からの連絡をもとに視診・触診をして、乳幼児の健康状態を確かめている。

②体調が悪そうな時は、静かに寝かせたり検温をするなど適切な処置を行い、すぐに家庭へ連絡している。

③保護者から健康状態などの申し出を受けるなど、乳幼児の健康情報を共有し、アレルギー、熱性攣痙、脱臼癖などの既往症について把握している。

④体重・身長などの計測を定期的に行い家庭に知らせるとともに、バランスの取れた発育が促されるように配慮している。

2.

①一人ひとりの子どもの発達の姿や課題について見通しをもって理解し、保育している。

3.

①禁止、脅し、命令、行動を急がせたり、自信を失わせることばや態度はできるだけ控えている。

②乳幼児期は身体的条件や生育環境などの違いにより、一人ひとり心身の発達に個人差が大きいことを理解し関わっている。

③抱っこする（移動する)、鼻水をふく、着脱や食事などの際は、必ず子どもに今から行うことを子どもの目を見て、一声かけてから丁寧に行っている。

④子どもの体にふれる時や、子どもの手や服を引くなどせず、丁寧に行っている。

⑤子どもに何か伝えたいときは、禁止用語のみを伝えるのではなく、子どもがわかるように丁寧なことばで丁寧に伝えている。

4.

①保育者全員が情報を共有し、クラスに関係なく、その場にいる保育者が適切な言葉かけや対応をしている。

②指導上配慮を必要とする幼児については、園の保育者全体で特によく話し合い、共通理解をもって工夫し対応するようにしている。

③他クラスや異年齢児との触れ合う機会がもてるようにさまざまな工夫、保育の形態に配慮している。

Ⅲ 保育の在り方、未満児への対応

1.

①家庭と連携をとりながら一人ひとりに合わせて離乳食の移行を行い、様々な食品に慣れ、食への意欲を育てている。

②睡眠が十分とれるような静かな環境を整え、午睡の状態（呼顔・吸色・嘔吐・汗)、およびSIDS(乳幼児突然死症候群）のチェックを記録している。

③一人ひとりの排泄間隔を把握し、その子の排泄リズムに合わせて、オムツ交換をしたり、トイレに促している。

2.

A〔心のよりどころとして〕

①子どもの話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察して受け止め、信頼関係を築いている。

②子どもとの温かなやりとりやスキンシップを常に心掛けている。

③子どもの話をよく聞くようにしている。

B〔あそびの援助者として〕

①一人ひとりの発達を把握し、それぞれの子どもの発達に合ったおもちゃ、季節や子どもの興味関心にあった絵本をおいてある。

C〔その他〕

①支援児が入園した時、個別的対応やクラスの子どもとともに育ち合える保育を積極的に進めるように考えている。

3.

①落ち着いた雰囲気の中で抱いたり語りかけたりして、子どもが人との関わりの楽しさや心地よさを味わえるようにしている。

②泣いたりぐずったりのサインを見逃さず、要求に応じた適切な対応をしている。

③子どもの心身の発達及び生活の連続性に配慮し、好奇心や発達を促す環境を整えて保育をしている。

④自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみ取り、安心感と自己肯定感がもてるような言葉がけをしている。

Ⅳ 保育の在り方、幼児への対応

1.

①幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察し、基本的欲求が十分満たされるよう配慮している。

②一人の幼児をじっくりと見ながら、見えないところで活動したり遊んでいる幼児についても、ある程度その活動の様子を推察することができる。

2.

A〔心のよりどころとして〕

①幼児一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受入れ認めるようにしている。

②幼児との温かなやりとりやスキンシップを常に心掛けている。

③幼児の話をよく聞くようにしている。

④“一人ひとり“と”みんな“の関係を常に考え、クラス集団をまとめている。

B〔あそび・活動の援助者として〕

①幼児が遊びや活動を深めていくためのヒントやアイデアを提供している。

②一人ひとりの発達を把握し、それぞれの子どもの発達に合ったおもちゃ、季節や子どもの興味関心にあった絵本をおいてある。

③幼児をほめたり、励ましたり、めあてをもたせるような言葉かけをしている。

C〔その他〕

①支援児が入園した時、個別的対応やクラスの子どもとともに育ち合える保育を積極的に進めるように考えている。

Ⅴ 保育者としての資質や能力・良識・適性

1.

A〔専門家としての能力〕

①保育にたずさわる者として、専門知識や技能を身につけている。

②保護者に対し、子どものことや自分の保育のことを分かりやすく話すことができ、保護者との信頼関係をつくることに努めている。

③保育者並びに他職員が仕事の手順を考え、能率よく行っている。

④保育者の人間性が子ども達に影響を与えることを自覚している。

B〔良識とマナー〕

①子どもや保護者との対応には、公平さを欠かないようにしている。

②朝と帰りのあいさつは明るく親しみを込めて行い、感謝の気持ちを言葉などで表している。

③園の消耗品や教材は節約して使い、私用に使っていない。

④服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全性にも気を付けている。

C〔義務〕

①教材、教具の管理、点検、園内外の清掃や整理整頓を実行している。

②締切りのある仕事や提出物の締切日、会議の打ち合わせの時間をきちんと守っている。

2.

①他者の意見を素直な気持ちで聞いたり、相手の意見を尊重し、自分の意見を述べることができる。

②こどものこと、クラスの出来事などで必要なことはクラスリーダーや園長や主任に報告、連絡、相談している。

③当番や役割による仕事を理解し確実に行っている。

④上司の指示、命令には責任をもって実行している。

3.

①子どもや教育・保育に関する情報を日頃から得ようとしている。

②社会情勢や季節の変化などを感じ取る感受性を大切にしている。

Ⅵ 保護者への対応・守秘義務

1.

①一人ひとりの子どもについて、家庭での養育方針などを把握している。

②クラスだよりなどで保育実践の内容や意図・クラスや子どもの様子を、写真やイラストなどを活用してわかりやすく伝える工夫をしている。

③個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、連絡帳などを使って伝え合っている。

④保育参加や保護者との会話を通して、子どもについて保育や家庭でのあり方について共通理解を得るよう努めている。

⑤保護者の要望を聞き、子どもにとってよりよい環境づくりに努めている。
⑥保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。
⑦子育てや就労を支えるために、保護者の気持ちに配慮しながら接するよう努めている。

2.
①保護者からの様々な訴え、要望、意見については安易に受けたり断ったり無視したりしないで相談をしている。
②必要な場合は、自園の苦情解決システムについて保護者に説明できる。

3.
①職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らしていない。
②秘密情報（保護者・園児等に関する個人情報、および園の運営上の情報、保育技術･保育計画等の情報）については園長の許可なく使用、開示、漏洩していない。
③秘密情報の記録が破損、改造されないように管理している。
④秘密情報の帰属は園または法人にあることを認識し、書類、電子データは持ち帰らないようにし、どうしても必要な場合は持ち出し届出許可書にて園長の許可を取っている。
⑤秘密情報の書類、電子データのコピーは園長の承認を受けた物のみ、必要最小限にし、必要がなくなった場合は適切に処分している。
⑥秘密情報について、新たに知り得たことについては直ちに園長等に報告している。

4.
①正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いて話しかけ、相手の話も落ち着いてしつかりと聞いている。
②親しくなったからといっても、友達同士のような話し方をしていない。
③電話では、簡潔に要領よく対話することを心がけている。
④保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応している。
⑤長期の欠席や入院等の場合には、園児の様子を確認し、園やクラスの様子を伝えたりしている。
⑥保護者の国籍、思想、宗教により、また子どもの性差、障害、個性差によって、区別、差別していない。

5.
①保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長等に連絡、報告、相談している。

Ⅶ 地域の自然や社会とのかかわり

1.
①地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている。
②地域の自然や機関を保育計画の中で位置づけて活用している。
③子どもの医療や保健に関する問題および地域の住民から受けた子育て相談の内容について、相談及び連絡先を把握している。
④実習生を受け入れるときは、意義や方針を理解し、指導的立場で接している。

⑤中高生の保育体験、ボランティアを受入れるときは、その目的や意義を理解・確認している。

2.

①園の保育内容が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを理解している。

②小学校の教育内容について理解するよう努めている。

③小学生が遊びにくることの出来る場（行事等を含む）を設けている。

④卒園した子どもの情報を得るよう努めている。

⑤小学校が、園での子どもの育ち等について、どのような情報を必要としているか理解するよう努めている。

3.

①高齢者との交流のために、デイサービス交流・行事への参加の呼びかけなど積極的に行っている。

Ⅷ 保育者の専門性に関する研修･研究への意欲・態度

1.

①研修会や研究会には自己課題・学ぶ目的をもって参加し、事前にその内容を確認したり自分なりの考えをまとめている。

②研修に参加したあとは、学んだ内容を同僚に伝え、自園の保育に合わせて実践している。

③自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行うとともに、保育のあり方や悩みについて他保育者や主任、園長と話し合っている。

2.

①園の玩具や教材・園庭遊具について、その特徴や基本的な使い方を知っている。

②園の玩具や教材・園庭遊具について、どんな使い方をするのか、どのような使い方が危険か予測できる。

3.

①園舎の構造や保育室の位置・大きさがどのような教育的な意味をもつか理解している。

②園庭や砂場、かくれ場所などの位置、広さなどがどのような教育的な意味をもつか理解し、保育に生かしている。

4.

①子どもを取り巻くさまざまな状況について、背景･原因･実態はどうであるか興味・関心をもっている。

②アレルギー・自立の遅れなど、最近多く見られる問題について興味・関心をもっている。

③保幼小連携の意義やあり方について興味・関心をもっている。

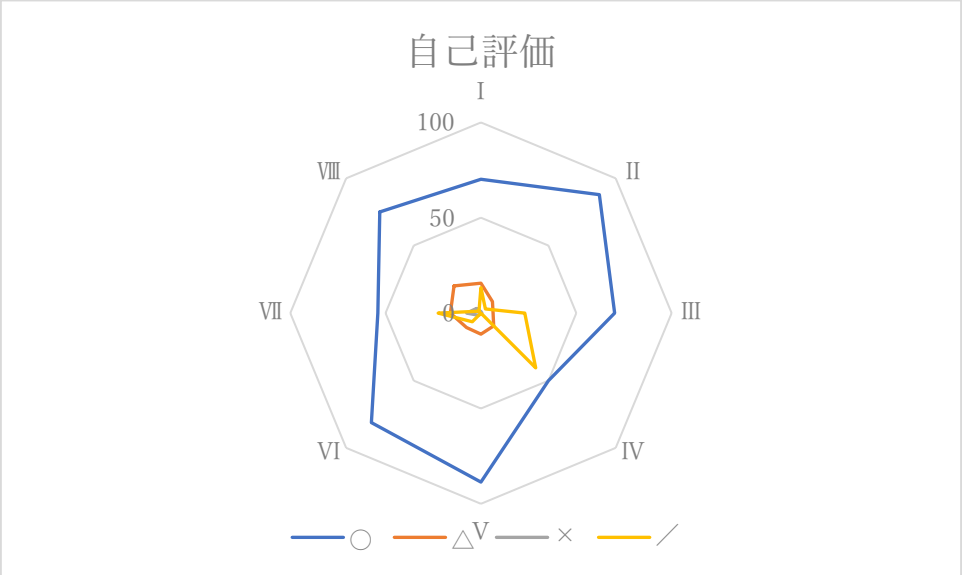
④子どもたちの安心・安全に関する危機管理について興味・関心をもっている。

5.

①保育の専門知識や技能のほかに趣味や読書、ボランティア活動等にも関心がある。

集計結果

	出来ている	出来ているときと出来ていないときがある	出来ていない	対象ではない
Ⅰ	70.2	15.7	0.8	13.3
Ⅱ	87.8	8.6	0.5	3.2
Ⅲ	70.1	6.4	0.5	23.0
Ⅳ	50.0	9.4	0.0	40.6
Ⅴ	88.6	11.0	0.4	0.0
Ⅵ	81.3	10.7	1.6	6.4
Ⅶ	54.0	16.0	7.5	22.5
Ⅷ	75.0	20.1	3.4	1.5



総評：理念や方針については、園内研修で共通理解の場を設けているが、人それぞれの捉え方や考え方がある為、完璧な共通理解に難しさを感じており、伝え方にさらなる工夫が必要。
保育所保育指針に基づく環境構成やこどもとの関わりなど学ぶ機会も設けながら、発達年齢に応じたよりよい環境づくり、こども一人ひとりとの関わりに務めている。保育者としての資質向上や保護者との関わり方などについても園内や団体主催の研修に参加し、研鑽している。学びに対する意欲については、個人差も感じているので、無理のない範囲で学びへの意欲が高まるような工夫の必要性を感じる。
感染症もおちつき、地域の方との交流(地域のミニデイや農作物の収穫体験)も再開しているので、引き続き地域の方との交流も行いたい。